



眼瞼けいれん、片側顔面けいれん に対するボツリヌス療法

神経内科部長

細山 幸子

日本神経学会専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医





眼瞼けいれん

- 眼輪筋の不随意攣縮
- 40歳以降の女性に多い
- まぶしさ、目を開けているとつらいなどの初期症状
- 眼瞼のぴくぴく感から始まり、まばたきが増え、進行すると目が開けられなくなる
- 特発性、パーキンソン病などに伴う症候性、薬剤性



Btx-a.jp/kao/ HPより



片側顔面けいれん

- 片側顔面筋の不随意攣縮
- 50-70歳代、女性に多い
- 片側の目の周囲のぴくつきから始まり、口、頬、顎へと進行する
- 顔面神経が隣接した血管に刺激されることにより生じる



Btx-a.jp/kao/ HPより



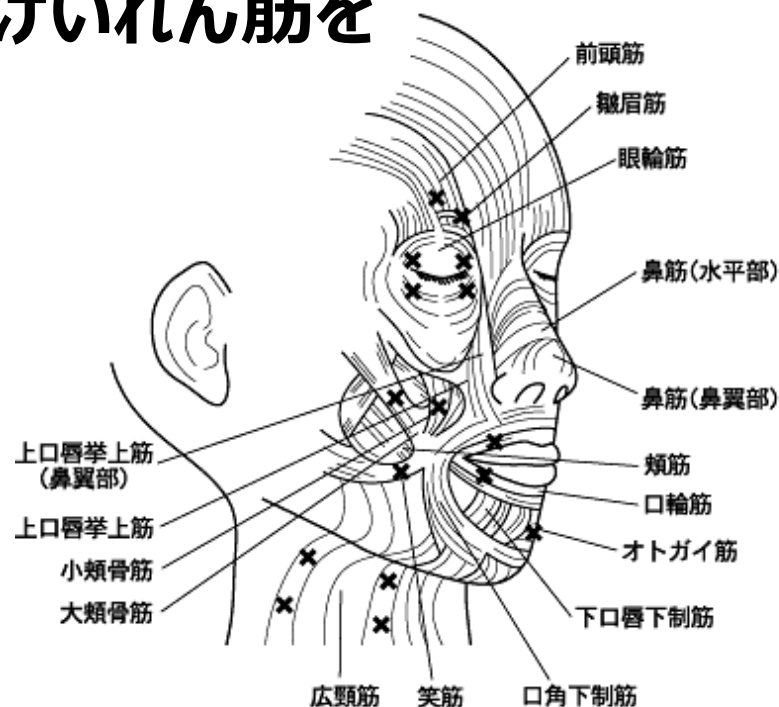
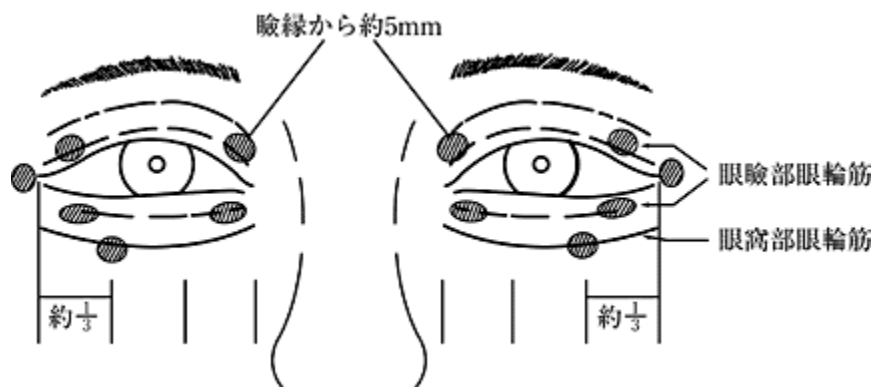
治療

- **内服薬**
クロナゼパムなど
- **ボツリヌス療法**
- **外科治療**
片側顔面けいれんでは神経減圧術



ボツリヌス療法とは

- ボツリヌス菌が作り出すボツリヌストキシンをけいれん筋に直接注射
- 神経と筋肉の伝達を遮断しけいれん筋を麻痺させる
- 効果：数か月





おわりに

- **眼瞼けいれん、片側顔面けいれんは生命にかかわる病気ではありませんが、日常生活に支障が出るならば治療が望まれます。**
- **気になる症状の方がいらしたらぜひご相談下さい。**

